

◆【解説】「各教科等において育まれる資質・能力を支える

『自立活動』授業デザイン例」について

相双教育事務所では域内小・中・義務教育学校の特別支援学級や通級による指導の授業改善を推進するため、「自立活動」に焦点を当てて授業展開の一例を示した「各教科等において育まれる資質・能力を支える『自立活動』授業デザイン例」を作成しました。「自立活動」の学びが各教科等の学びにつながるよう、指導内容の選定や児童生徒とのかかわり等の具体的な流れなどを紹介しています。

各教科等において育まれる資質・能力を支える「自立活動」授業デザイン例

自立活動

Autonomous Activities

- ▶ 学級 小学校 特別支援学級
- ▶ 題材 「自分の考えや気持ち」

POINT
01

児童の実態と教師の仕掛け

対象児童 A は、自分の考えや気持ちを相手に伝えたという思いを持っている。特別支援学級での授業においては、担任の教師に自分の考えや気持ちを声で伝え、それを担任の教師が他の児童に伝えてきた。しかし、交流先の通常学級では、この方法だけでは自分の考えや気持ちを相手に伝えることが難しく、戸惑う様子が見られた。そこで教師は、本人と相談し、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を増やしていくことを自立活動の指導目標に設定した。

教師は、児童 A が絵を描くことを好むことから、自立活動の指導目標の達成につなげることができるのではないかと考えた。

「自立活動」においては、児童生徒の中心課題に応じた指導内容・目標を設定していくことが重要です。「POINT01」では、以下の2点を解説しています。

- ・教師が実態把握を進めること
- ・見えた課題から指導すべき内容を6区分27項目（別紙参照）の中から選定すること

POINT
02

学習の実際

◎ 自分の課題に向き合い、自分の考えや気持ちを伝える。

教師「Aさんは、自分の考えや気持ちを伝えたい。」
児童 A（「うん。」とうなずく。）
教師「そんなとき、どうすれば伝えやすくなるでしょう。」
児童 A（「うん…」と考え込む。）
教師「例えば、Aさんは絵を描くことが得意だから、絵で伝えることができるのではないかな。」
児童 A（うれしそうにうなずいて、黙々と絵を描き始める。）
教師「この絵は、『困っている』ということなのかな。」
児童 A（うなずく。）
教師「この絵だけだと困っているのは分かるけど、どうして欲しいのかは伝わらないかもしれないね。」
児童 A（少し考えてから、時計の絵と、『じかんをください』という言葉を書き入れ、得意げに教師に見せる。）
教師「なるほど。言葉を書き入れると、相手に伝わりやすくなりますね。」
児童 B「Aさん、私にも見せて。何を作ったの。」
児童 A（児童 B に作成したカードを見せる。）
児童 B「Aさんは、もっと時間が欲しいときがあるんだね。」
児童 A（Bさんに自分の気持ちが伝わり、笑顔を見せる。）
教師「カードの表す意味が、Bさんにも伝わりましたね。自分のしてほしいことを伝えるときに、得意な絵が役に立ちそうですね。実際に困った場面でも使えそうですね。」

児童 A が作成したカードのイメージ

「POINT02」においては、学習の実際を「対話形式」で記載しています。次のような教師の姿を意図しています。

- ・児童生徒の言葉に対する傾聴の重視。
- ・言葉で表出されない児童生徒の思いの見取りと教師による言葉での価値付け。

また、教材例を掲載しているので、ぜひ参考にしてください。

POINT
03

自ら環境を整えようとする児童の姿

授業後半では、児童 A は、自分の課題に対する解決方法を考え、自分の考えや気持ちが他者に伝わる経験をしたことにより、自信をもち、自分の考えや気持ちを他者に伝えたいという思いを高めることができた。

「POINT03」では、具体的な児童生徒の姿から、学習を通じての変容をとらえるようにしています。自立活動で学んだ内容が、普通の授業や生活に般化され、各教科等でねらう資質・能力を育むための学習に向かう基盤につながっています。